

令和6年度第4回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和7年3月26日(水)午後10時00分から11時45分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階802会議室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--|
| 委員 | 晝馬るみ委員長、山本巖副委員長、李受眞委員、
松井里華委員、飛田ひさ子委員、村上剛委員、
近藤潤子委員、澤根緑委員、中村朋子委員 |
| 事務局 | 加藤生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長
袴田指導主事、石塚主任、新林 |
| 欠席委員 | 花井清孝委員 |
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容
1. 生涯学習推進大綱の改定について
 2. 主要事業の実施状況について
 3. 令和7年度社会教育関係団体の補助金について
 4. 第38期社会教育委員会に向けて
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田指導主事, 新林
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 生涯学習推進大綱の改定について

■事務局から、生涯学習推進大綱の改定について説明

■意見・感想・質疑応答

山本委員：

生涯学習推進大綱改定のスケジュールについて伺いたい。

事務局：

令和7年度中に改訂作業を行い、市民へ周知を図る予定である。第38期の委員の皆様は素案についてご協議いただき、教育委員会にも諮った後、秋にパブリックコメントを実施、議会への報告と承認を経て年内には取りまとめ、年明けに市民への公表を予定している。

山本委員：

生涯学習推進大綱の改訂骨子(案)にある生涯学習の「目的や効果」の表現の仕方を統一した方がよいのではないだろうか。また、「学びを通した社会課題の解決」とあるが、これはどういったことか。特に市民には社会課題というもののイメージが湧きにくいのではないか。

事務局：

生涯学習を通じて人とのつながりが生まれ、それが地域づくり・課題解決につながると考えている。たとえば、一人暮らしの方が生涯学習に参加することで、学習者同士のつながりができる、このつながりが、「孤立」や「無関心」を防ぐことの一因になると考えられる。地域の抱える課題の一つである孤立化の解消の一助となるのではないか。また、学びを通した「つながり」が助け合いや協働の土台になり、さらに地域へと目が向いていくと様々な地域活動に関わることで地域の活性化につながっていくと考えられる。なお、社会課題の解決といった表現だとイメージが湧きにくいようであれば、表現を検討していく。

山本委員：

生涯学習推進大綱改訂骨子(案)の「現状と課題」の箇所は、項目があがっているだけで何が課題かわかりにくいのではないか。実態調査の報告書 P68 にまとめられた事項である「高齢者層の多様化」、「情報取得媒体の2分化」、「自身や家族の健康に関する関心の高さ」、「生涯学習活動に対する評価」を記載したほうがよいのではないか。

事務局：

報告書におけるまとめの部分は、この調査における特徴的な事象であり、市民の皆さんの意見をまとめたものである。現状と課題がわかりやすくなるよう、具体的な表現を検討していきたい。

山本委員：

現状と課題の部分は「学習活動への参加」とだけ記載があるため、これにつながる言葉

を加えるとよい。

事務局：

一枚に収めるにあたり省略した表現をしているが、現状と課題についてさらなる説明が必要であると認識した。

山本委員：

生涯学習推進大綱の改訂骨子(案)の「目指す姿」には、「浜松」という言葉が省略されているが、「浜松」を入れた方が市民にとって身近に感じられると思う。また、現在の大綱の推進項目には「施設の整備」と記載があるが、骨子案の推進項目には記載がない。「施設の整備」という記載が必要ではないか。

事務局：

「学習環境の向上」中で施設整備についてふれていく方向で検討している。浜松市の生涯学習講座は協働センターやふれあいセンター等の生涯学習施設で行うことが多いが、協働センターやふれあいセンター以外の場所での講座やイベント等の事業についても展開があってもよいのではないかという意見をいただいております、その方向性を示したいという理由から「学習環境の向上」を推進項目として新たに記載した。ただ、骨子案だけを見ても、この意図が伝わりにくいということがわかった。

飛田委員：

生涯学習推進大綱の改訂骨子(案)は素晴らしい内容だが、現実とのギャップが大きいように感じる。「いつでも、だれでも、希望に応じて学ぶことができる環境づくり」と記されているが、現状、人気のある講座は抽選に当たらないことや、高齢の方の中には、自宅から協働センターまで遠くて行けないということもあるときく。この点に関しては、地域にある自治会が管理する公民館の利用を促進してはいかかが。身近な生涯学習の場を増やすため、公民館等での講座をしてもよいのではないか。いつでも、だれでも、希望に応じて学ぶことができるような対策を講じてほしい。

澤根委員：

高齢者の生涯学習を推進するためには、高齢者が歩いて行ける身近な施設での学習機会が必須であると考えられるため、公民館の活用を推進してほしい。2月の分科会定例会時に生涯学習推進大綱の資料を見たが、秋にパブリックコメントを実施すると記載があった。周知を十分に行ってパブリックコメントを実施することを望む。

澤根委員：

「浜松」という言葉は「目指す姿」に入れるべきと考える。「施設整備」は「環境の向上」と一緒にせず、別項目として示す方が伝わりやすい。

中村委員：

改訂骨子(案)では課題が明確になっていないように思う。課題を明確にし、解決への手立てを示し、目指す姿につながるようにした方がよいのではないか。また、「目指す姿」について「安心感」という表現があるが、やや曖昧に感じる。目指す姿には充実感・幸福感といった将来の希望につながるようなニュアンスの文言がよいのではないか。

事務局：

「浜松」の文言は入れていく方向で検討し、「安心感」の表現も再考したい。生涯学習から安心感は一見つながりにくいところではあるかもしれないが、学びを通して、人とつながり、地域での顔見知りが増えることで孤独感や・不安が軽くなること、困ったときに頼れる人がいるという実感から安心感を得られるという意図で用いた。

晝馬委員長：

生涯学習を通して、つながりが生まれ顔見知りの関係が増えることは、例えば発災時に地域の防災力の向上などにつながり、まさに地域づくりにつながる。この生涯学習と地域づくりとの関係については、大綱の目指す姿に、生涯学習の根幹としてメインで記載するか、それともサブ的なものとするのかは検討すべきである。

村上委員：

報告書を見ると、市民は、心身の健康に関心が高い。「健康」の文言を盛り込んでもよいのではないか。また、実態調査から学ぶ意欲はあっても自分から行動しない方も多くおり、そうした方たちにいかに「きっかけ」をつくるかが重要となる。推進大綱には「きっかけづくり」に関する記述もあってよいと思う。

松井委員：

生涯学習の講座やイベント等に参加した多くの方から「参加してよかった・楽しかった」という意見があるが、参加していない方にはそのよさが伝わっていない。参加者の意見をどう広めていくかが重要と考える。

近藤委員：

生涯学習という言葉はとっつきにくい印象がある。若い世代にもわかりやすく伝える工夫が必要である。

晝馬委員長：

普段から若い世代と接している李委員から意見をいただきたい。

李委員：

若い世代は生涯学習を「高齢者の話」と捉えがちだが、社会に出てからも学び続けることが重要だという意識に変えていきたい。また、「目指す姿」を「市民一人ひとりの幸福度の

向上」とし、「豊かさと安心感のあるまち」はサブタイトルの的に位置づけた方が伝わりやすい。

晝馬委員長：

課題を明確にし、具体的な手立てを示したうえで、市民に提示できる内容が望ましいのではないかと。また、改訂骨子(案)は、一目で全体がわかる構成が望ましい。市の実施する生涯学習の事業は、カルチャーセンターで実施される講座と違い、学んだことが地域に還元され、結果的に地域の幸福度を高めるものであると考える。骨子案の目指す姿のサブタイトルは「～人や地域のつながりのなかで、市民一人ひとりの幸福度の向上を目指す～」とありこれは素晴らしいと思う。特に高齢者が多い地域では、孤立化等課題も多くあり、この課題解決は喫緊の課題である。

山本委員：

案では国と浜松の動きが時系列で記されているが、「浜松はどうか」というまとめがあつていいのではないかと。大合併や区再編などもあつたため、区ごとの特徴や課題にも触れると良いのではないかと。

(2)主要事業の実施状況について

■事務局より・生涯学習人財育成事業・浜松市と大学との連携事業について説明

■意見、質疑応答なし

(3)令和7年度社会教育関係団体補助金について

■事務局より令和7年度社会教育関係団体補助金について説明

■意見、質疑応答なし

晝馬委員長：

令和7年度社会教育関係団体への交付補助金を承認させていただく。

(4)第38期社会教育委員会に向けて

■意見・感想、質疑応答

晝馬委員長：

第38期に向けて、協議のテーマとしていきたい事項や生涯学習・地域づくりへの思い、第38期に託したいことやつなげたいことを自由にご発言いただきたい。

山本委員：

生涯学習推進大綱をまとめ上げていくことが最重要な項目になると思う。生涯学習推進大綱の改定について協議することで具体的な協議すべき事項についても話題にあがるのではと思っている。

飛田委員：

高齢者だけではなく、多様な年代を巻き込んでいく仕掛けが必要だと考える。現役世代は、仕事などで忙しいが、スマホ等でイベント情報が手軽に見られ、参加しやすい環境が整っていれば、もっと生涯学習に関する事業に興味を持ってもらえるはずである。最近、浜松市の公式 LINE「しゃんべえ情報局」でイベント情報を見て、『鍵盤ハーモニカでギネスに挑戦』という企画に参加した。小学生から高齢者まで約 1000 人が集まり、演奏するという大規模なイベントだったが、本当に楽しく、大きな達成感を味わった。「市民みんなで集まって、楽器を演奏しよう、世界に挑戦しよう」という発想は、浜松だからこそ生まれたもので、とても感動した。魅力のあるイベントは、周知を工夫すれば、多くの人が集まるものだと実感した。年代を問わず情報にアクセスしやすい仕組みが必要だと強く感じている。また、高齢者にはまずスマホの使い方を丁寧に伝える講座等を充実することも重要だと考える。

晝馬委員長：

常に課題としてあがってきたことが、「よい企画があっても、届けたい相手に情報が届かない」という点である。周知や広報の仕方は非常に重要である。また現状では、高齢者は高齢者だけ、子どもは子どもだけといった講座等が多いように感じる。核家族化が急速に広まる中、世代間の交流がある企画が増えることで、新しいつながりが生まれ、そのつながりは、地域づくりとなり地域が抱える様々な課題解決の一助となるのではないかと考える。

松井委員：

若い人が関心を持てるような講座は少ないと感じる。例えば、メイク関係の講座を企画し、連続講座の最終回では地域の高齢者施設等を訪問して、学んだ技術を実際に高齢者に施す、という形にすれば、世代間交流になり、地域とのつながりも生まれるのではないか。一回限りの訪問ではなく、継続的に関わる形で「次はこんなふうに仕上げよう」といったやりとりができれば、若い人にとっても想像しやすく、興味を持ちやすいのではないか。こういったチャレンジングな講座をぜひ企画があるとよいのではないか。

李委員：

世代間交流を推進することに賛成である。例えば、出産を控えている人や子育て中の世代と高齢者が交流する講座を企画してはどうだろうか。内容は、家庭内の子育てワンポイントアドバイスと孫を支援する高齢者向けの講義を同時に行うといったものである。子育て世代の大変さ、高齢者に支援してほしい内容等相互理解が図れる。また、交流会をすることで世代間交流が生まれるのではないか。また、情報発信については、世代によって課題が異なる。若い世代は SNS に慣れているが、情報が届いていない、高齢者は欲しい情

報になかなか辿り着けないのではないか。高齢者に対しては、いかに魅力ある講座の情報をわかりやすく届けるかが今後の鍵になる。

3 報告・連絡事項

■各種表彰について事務局より以下の通り報告

- ・第 77 回優良公民館文部科学大臣表彰(高台協働センター)
- ・令和6年度子供を育む地域活動団体県教育長表彰
(入野小 PTA 母親ボランティア、萩っ子サポーターズクラブ、こどもサロン)

4 村上委員、近藤委員、中村委員、退任委員あいさつ

5 晝馬委員長退任あいさつ

6 担当課長挨拶

7 閉会